

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 清和 (1棟)		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393900026-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393900026-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり緑あふれる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり花を育てたり庭の手入れを一緒に行っている。庭では犬を飼っており利用者様の癒やしになっている。フラワー教室や語りの会など地域からのボランティアを招き地域との繋がりを大切にしている。また、四季を感じていただけるよう初詣、お花見、コスモス観賞、遠足、紅葉狩り、地域の催し物など外出の機会を持つようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員・利用者とも表情が穏やかで、事業所全体に和やかな空気があふれている。年間を通しての毎日の入浴や利用者の持っている力に応じて仕事を分担することで、利用者の健康管理や人としての尊厳が大切にされているので、一人ひとりが生き生きと生活している。また、家族の協力で居室の飾りつけに生活感を出すことで不穏な動きが減った例も見られる。  
管理職と職員間の風通しが良く、何でも言い合える関係を構築しているため、職員も生き生きと活動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議で理念に基づく目標を決め、毎朝理念と目標を復唱し実践に繋げている。	理念を各ユニットの事務室に掲示するとともに、毎朝の引継ぎで復唱し共有している。また、理念に基づく月目標とそのケアを振り返ることで、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流したり、地域の催し物に出掛けるなど地域との交流が出来るように努めている。	地域の夏祭り・文化祭・菊花展や神社の祭りに参加し、地元の人たちと言葉を交わしている。また、保育園で行われる運動会への参加やボランティアによる慰問は、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支援センターの取り組みに参加している。本年度は町主催の会合にパネリストとして出席しホームでの取り組みを地域に向けて発表した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数日第4金曜日に開催する運営推進会議にはご家族、地域の方や派出所、町の介護保険担当者など様々な立場の方に出席をさせていただいている。出席されていないご家族には議事録を送付している。	福祉課、包括支援センター、駐在所、民生委員、地域の他事業所が参加し2ヶ月に一度開催している。内容は運営状況、それをもとにした意見交換である。出された意見は勤務の組み方に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター担当者には日頃より困難事例など報告や相談をし解決に向けて協力をいただいている。	各ユニットの管理者が窓口となり、細やかに報告・相談・連絡を行って人間関係を築いている。また、包括支援センターが実施する研修会にも参加し、活発な意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯として夜間のみとし、施設内研修を行い施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本部から講師を招いて内部研修を実施し、身体拘束について共有している。とりわけ、スピーチロックを防ぐための細やかな言葉かけが徹底し、利用者一人ひとりの尊重につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待防止関連法について学び虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修は行っているが、そのような事例はなく活用、支援の経験はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定については主にご家族に説明し疑問点などにお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会を利用し意見を伺っている。	利用者は職員と一対一になる時に、家族は面会時を中心に意見を聴くようにしている。出された意見は、利用者の喫煙や飲酒に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を開催し職員間の意思疎通を図っている。管理者は意見や提案があれば施設長に報告し、それが反映できるように努めている。	月に一度の職員会議や日々のケアの中で、聞くようにしている。職員から活発な意見が出され、暖房器具や物置の設置に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場の環境・条件は整備できているといえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の費用助成や資格取得お祝い金などを定めている。また年度初めに研修予定を組み法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりには出来るだけ出席し同業者と交流している。また法人内のグループホームで集い勉強会や意見交換を行い、職員の質、またはサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、話をお聞きし疑問にお答えするなど安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていることなどよくお聞きしホームでの対応や生活について丁寧に説明することで安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力により家事参加していただき感謝されたり感謝したりする場面をつくることでご自分の居場所と役割を実感していただき暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月1ヶ月分の介護経過記録と2ヶ月に1度の運営推進会議議事録を送付し日々の様子をお知らせしている。来訪の際には直接情報交換をし共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と協力しながら入居前から利用していた店や美容院の利用、地域の行事や祭りなどに参加できる機会をつくり馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	全ての利用者が町内出身者で、これまで通っていた商店や理容院に行ったり、夏祭りや文化祭に参加し地域の人と言葉を交わしている。また、近所の人や知人の面会時には関係の継続ができるよう、言葉をかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動、家事活動の時間を設けることで利用者様同士が自然に同じ時間を過ごし関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へのスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	入浴時や利用者の部屋に入った時に、思いや意向を聴くようにしている。塗り絵がスムーズにできる工夫や、入浴の順に反映している。困難な場合は生活歴や家族の情報から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りや、以前利用していた事業所からも情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情などそれぞれの介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行いご本人の思いを大切にしながらご家族、主治医、看護師に相談、助言をいただき介護計画を作成している。	月に一度、ユニットごとに計画の取り組み状況を振り返り、利用者・家族の意向であるおやつや車イス利用に反映している。見直しはモニタリングと並行して6月を基本としているが、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様に寄り添うことで小さな気づきを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力をいただいているが、日々の生活を知っている者の付き添いが良い場合や緊急性の高い場合は職員が対応するなど柔軟に対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館へ出掛けたり、地域の催し物等外出の機会を作り、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ受診付き添いを行い、主治医にご利用者様の状態をお伝えしている。受診結果はご家族様にも報告しご家族様の思いもお聞きしながら医療を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者は、入居時に協力医をかかりつけ医としている。月に一度の受診と週に1回の訪問看護がある。歯科については、月に一度の往診と衛生士による口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1度の来訪による健康チェック、24時間オンコール対応で体調不良の際、情報を伝え相談しご利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院には入院施設があり日頃から利用者様の状態は把握して頂いている為、迅速かつスムーズな対応がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化がある場合、主治医からの意見をふまえてご家族様に説明と相談のうえ方針をたてチームでの支援に取り組んでいる。	利用開始時に、基本方針を丁寧に説明している。重度化した場合、医師の意見を基に再度、家族に説明したうえで方針を立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し勉強会を行い実践力を身につけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を重ね、訓練の時間帯や方法を見直し、スキルアップを図っている。また隣接する同法人事業所、地元消防団とも協力体制を築いている。	6月に昼間を想定した避難訓練を実施している。秋には消防署の指導の下、地域のボランティアの炊き出しも計画していたが、天候で延期になったので、時期を検討中である。	訓練に地域からの参加を得るための工夫が期待されます。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で頻繁に言葉使いや対応について話し合う機会を設け人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような対応に心掛けている。	職員会議を中心に、利用者一人ひとりを尊重する呼称や話しかけ方について話し合い、共有している。入浴時の同性介助や話しかける時の位置、声の大きさにも配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気作りを心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料やお化粧品の買い物の付き添いまたは購入の代行を行いおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米洗いやおかずの盛り付け、お茶つき、配膳、下膳、食器洗いなど食事に関わることを個々の能力に応じて参加していただいている。また献立表記も利用者様がしてくださっており食事に関心が持てるような支援をしている。	副食は配食を中心としているが、ご飯と味噌汁は職員が交代で作っている。利用者も盛り付けや配膳に加わり、職員と会話しながら和やかに食べている。誕生日会の仕出しや天気の良い日に外で食べることで変化を持たせ、食事を楽しむ工夫をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態は状態に応じて対応し、水分が摂りにくい方はご家族様にお願ひし好みの飲み物やゼリーなどを用意していただき対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声掛けを行っている。必要な方は歯科訪問診療、歯科衛生士からの口腔ケアを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基に声をかけたり、トイレに誘導することで昼間は全員がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりの状況に応じて対応している。紙パンツからパンツへの改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理なく水分補給が出来るよう色々な飲み物を用意している。毎日体を動かすことが出来るよう体操の時間を設けている。毎朝ビフィズス菌飲料を提供している。排泄チェック表をもとに緩下剤をこまめに増減している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	365日入浴出来る環境を整えている。体調により入浴出来ない方気が向かず入浴出来ない方など状況に応じて更衣、清拭、足浴など個々に沿った支援をしている。	風呂の清掃が行き届き、清潔感があふれている。年間を通じて毎日、午後を中心に実施しており夜間に入る利用者もいる。柚子湯や入浴剤を使用して、入浴が楽しみになる工夫もしている。現在、嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、照明等環境を整え安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書はそれぞれにファイルし副作用等について確認が出来るようにしている。体調や様子の変化は記録に残し主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、新聞ゴミ袋折り、毎日の献立表記、月間予定表記などそれぞれが役割をもたれている。また塗り絵、書き取り、計算問題、貼り絵、手芸など用意しそれぞれの好みに応じて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡をいれ協力をしていただいている。	毎日、行っている周囲の散歩や町内のドライブ、花見をはじめとする季節ごとの外出を楽しんでいる。利用者によっては、家族と定期的に外食を楽しんでいる人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で管理され外出時の買い物を楽しむ方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用していただいている。手紙などは必要に応じて切手を購入したりポストへの投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物で彩りを添えたり、季節にあった創作活動をしその作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	居間は広くて明るく、温度や湿度・音が適切に管理されている。両ユニットとも居間が細長く、台所から全室を見渡せる設計となっており、利用者は安心して活動できる。日当たりの良いソファでくつろぐ人や、壁には行事の写真や貼り絵を掛け、生活感を出している。トイレや風呂の清掃が行き届き、清潔感あふれる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳スペース、個々の指定席のあるテーブル席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、写真を飾ったりしている。また、殺風景にならないよう鏡や観葉植物を配置するなど居心地良く過ごせるような工夫をしている。	木調の床や框に国産の集成材が用いられ、落ち着きを出している。また、それぞれに木製の表札を掲げることで家庭の雰囲気も醸し出している。ブリザード・フラワー、鏡、縫いぐるみが持ち込まれ、生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全て段差のないバリアフリー建築になっており、ぐるりと見渡せるワンフロア構造となっている。安全で分かりやすいことで自立した生活を送ることが出来るよう工夫されている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 清和 (2棟)		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393900026-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393900026-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり緑あふれる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり花を育てたり庭の手入れを一緒に行っている。庭では犬を飼っており利用者様の癒やしになっている。フラワー教室や語りの会など地域からのボランティアを招き地域との繋がりを大切にしている。また、四季を感じていただけるよう初詣、お花見、コスモス観賞、遠足、紅葉狩り、地域の催し物など外出の機会を持つようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員・利用者とも表情が穏やかで、事業所全体に和やかな空気があふれている。年間を通しての毎日の入浴や利用者の持っている力に応じて仕事を分担することで、利用者の健康管理や人としての尊厳が大切にされているので、一人ひとりが生き生きと生活している。また、家族の協力で居室の飾りつけに生活感を出すことで不穏な動きが減った例も見られる。  
管理職と職員間の風通しが良く、何でも言い合える関係を構築しているため、職員も生き生きと活動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の職員会議で理念に基づく目標を決め、毎朝理念と目標を復唱し実践に繋げている。	理念を各ユニットの事務室に掲示するとともに、毎朝の引継ぎで復唱し共有している。また、理念に基づく月目標とそのケアを振り返ることで、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流したり、地域の催し物に出掛けるなど地域との交流が出来るように努めている。	地域の夏祭り・文化祭・菊花展や神社の祭りに参加し、地元の人たちと言葉を交わしている。また、保育園で行われる運動会への参加やボランティアによる慰問は、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域支援センターの取り組みに参加している。本年度は町主催の会合にパネリストとして出席しホームでの取り組みを地域に向けて発表した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月第4金曜日に開催する運営推進会議にはご家族、地域の方や派出所、町の介護保険担当者介護保険施設の方など様々な立場の方に出席をしていただいている。出席されていないご家族には議事録を送付している。	福祉課、包括支援センター、駐在所、民生委員、地域の他事業所が参加し2ヶ月に一度開催している。内容は運営状況、それをもとにした意見交換である。出された意見は勤務の組み方に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター担当者には日頃より困難事例など報告や相談をし解決に向けて協力をいただいている。	各ユニットの管理者が窓口となり、細やかに報告・相談・連絡を行って人間関係を築いている。また、包括支援センターが実施する研修会にも参加し、活発な意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯として夜間のみとし、施設内研修を行い施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本部から講師を招いて内部研修を実施し、身体拘束について共有している。とりわけ、スピーチロックを防ぐための細やかな言葉かけが徹底し、利用者一人ひとりの尊重につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待防止関連法について学び虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度の手続きをしたが利用には至らなかった経験がある。 日常生活支援事業は、複数の方が活用しておられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定については主にご家族に説明し疑問点などにお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会を利用し意見を伺っている。	利用者は職員と一対一になる時に、家族は面会時を中心に意見を聴くようにしている。出された意見は、利用者の喫煙や飲酒に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を開催し職員間の意思疎通を図っている。管理者は意見や提案があれば施設長に報告し、それが反映できるように努めている。	月に一度の職員会議や日々のケアの中で、聞くようにしている。職員から活発な意見が出され、暖房器具や物置の設置に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職場の環境・条件は整備できているといえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の費用助成や資格取得お祝い金などを定めている。また年度初めに研修予定を組み法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりには出来るだけ出席し同業者と交流している。また法人内のグループホームで集い勉強会や意見交換を行い、職員の質、またはサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、話をお聞きし疑問にお答えするなど安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていることなどよくお聞きし、ホームでの対応や生活について丁寧に説明することで安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力により家事参加していただき感謝されたり感謝したりする場面をつくることでご自分の居場所と役割を実感していただき暮らしを共にする者同士の関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月1ヶ月分の介護経過記録と2ヶ月に1度の運営推進会議議事録を送付し日々の様子をお知らせしている。来訪の際には直接情報交換をし共にご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と協力しながら入居前から利用していた店や美容院の利用、地域の行事や祭りなどに参加できる機会をつくり馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	全ての利用者が町内出身者で、これまで通っていた商店や理容院に行ったり、夏祭りや文化祭に参加し地域の人と言葉を交わしている。また、近所の人や知人の面会時には関係の継続ができるよう、言葉をかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動、家事活動の時間を設けることで利用者様同士が自然に同じ時間を過ごし関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へのスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	入浴時や利用者の部屋に入った時に、思いや意向を聴くようにしている。塗り絵がスムーズにできる工夫や、入浴の順に反映している。困難な場合は生活歴や家族の情報から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りや、以前利用していた事業所からも情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情などそれぞれの介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行いご本人の思いを大切にしながらご家族、主治医、看護師に相談、助言をいただき介護計画を作成している。	月に一度、ユニットごとに計画の取り組み状況を振り返り、利用者・家族の意向であるおやつや車イス利用に反映している。見直しはモニタリングと並行して6月を基本としているが、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様に寄り添うことで小さな気づきを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力をいただいているが、日々の生活を知っている者の付き添いが良い場合や緊急性の高い場合は職員が付き添い、柔軟な対応でサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館へ出掛けたり、地域の催し物等外出の機会を作り、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ受診付き添いを行い、主治医にご利用者様の状態をお伝えしている。受診結果はご家族様にも報告しご家族様の思いもお聞きしながら医療を受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者は、入居時に協力医をかかりつけ医としている。月に一度の受診と週に1回の訪問看護がある。歯科については、月に一度の往診と衛生士による口腔ケアを実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1度の来訪による健康チェック、24時間オンコール対応で体調不良の際、情報を伝え相談しご利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院には入院施設があり日頃から利用者様の状態は把握して頂いている為、迅速かつスムーズな対応がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化がある場合、主治医からの意見をふまえてご家族様に説明と相談のうえ方針をたてチームでの支援に取り組んでいる。	利用開始時に、基本方針を丁寧に説明している。重度化した場合、医師の意見を基に再度、家族に説明したうえで方針を立てている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し勉強会を行い実践力を身につけるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を重ね、訓練の時間帯や方法を見直し、スキルアップを図っている。また隣接する同法人事業所、地元消防団とも協力体制を築いている。	6月に昼間を想定した避難訓練を実施している。秋には消防署の指導の下、地域のボランティアの炊き出しも計画していたが、天候で延期になったので、時期を検討中である。	訓練に地域からの参加を得るための工夫が期待されます。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で頻繁に言葉使いや対応について話し合う機会を設け人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような対応に心掛けている。	職員会議を中心に、利用者一人ひとりを尊重する呼称や話しかけ方について話し合い、共有している。入浴時の同性介助や話しかける時の位置、声の大きさにも配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気作りを心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料やお化粧品の買い物の付き添いまたは購入の代行を行いおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米洗い・野菜の皮むき・材料切り・おかずの盛り付け・お茶つぎ・配膳・下膳・食器洗いなど食事に関わることを個々の能力に応じて参加していたり、食事に関心が持てるような支援をしている。	副食は配食を中心としているが、ご飯と味噌汁は職員が交代で作っている。利用者も盛り付けや配膳に加わり、職員と会話しながら和やかに食べている。誕生日会の仕出しや天気の良い日に外で食べることで変化を持たせ、食事を楽しむ工夫をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。 食事形態は状態に応じて対応し、水分が摂りにくい方は、好みの飲み物やゼリーなどを用意し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声掛けを行っている。必要な方は歯科訪問診療、歯科衛生士からの口腔ケアを受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基に声をかけたり、トイレに誘導することで昼間は全員がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりの状況に応じて対応している。紙パンツからパンツへの改善例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ビフィズス菌飲料を提供し、無理なく水分補給が出来るよう色々な飲み物を揃え自分で選択出来るように工夫している。 毎日体操の時間を設け身体を動かす事を心掛けている。排泄チェック表を元に緩下剤を増減している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	365日入浴出来る環境を整えており、体調により入浴出来ない方、気が向かず入浴出来ない方など状況に応じて更衣、清拭、足浴など個々に沿った支援をしている。 夜間に希望された場合にも対応している。	風呂の清掃が行き届き、清潔感があふれている。年間を通じて毎日、午後を中心に実施しており夜間に入る利用者もいる。柚子湯や入浴剤を使用して、入浴が楽しみになる工夫もしている。現在、嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、照明等環境を整え安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書はそれぞれにファイルし副作用等について確認が出来るようにしている。体調や様子の変化は記録に残し主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、新聞ゴミ袋折り、花壇の水やりなどそれぞれが役割をもたれている。また塗り絵、書き取り、計算問題、貼り絵、手芸など用意しそれぞれの好みに応じて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡をいれ協力をしていただいている。	毎日、行っている周囲の散歩や町内のドライブ、花見をはじめとする季節ごとの外出を楽しんでいる。利用者によっては、家族と定期的に外食を楽しんでいる人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方については、ご自分で管理され外出時や移動販売車の買い物を楽しむ方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用していただいている。手紙などは必要に応じて切手を購入したりポストへの投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物で彩りを添えたり、季節にあった創作活動をしその作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	居間は広くて明るく、温度や湿度・音が適切に管理されている。両ユニットとも居間が細長く、台所から全室を見渡せる設計となっており、利用者は安心して活動できる。日当たりの良いソファでくつろぐ人や、壁には行事の写真や貼り絵を掛け、生活感を出している。トイレや風呂の清掃が行き届き、清潔感あふれる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳台スペース、個々の指定席のあるテーブル席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使いなれたものを持ち込んでいただいたり、写真を飾ったりしている。また、殺風景にならないよう鏡や観葉植物を配置するなど居心地良く過ごせるような工夫をしている。	木調の床や框に国産の集成材が用いられ、落ち着きを出している。また、それぞれに木製の表札を掲げることで家庭の雰囲気も醸し出している。ブリザード・フラワー、鏡、縫いぐるみが持ち込まれ、生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全て段差のないバリアフリー建築になっており、ぐるりと見渡せるワンフロア構造となっている。安全で分かりやすいことで自立した生活を送ることが出来るよう工夫されている。		